243 肥大心における局所心筋血流・脂肪酸代謝乖離の意義 ー Tl/BMIPP 心筋 SPECT による検討

市川和弘（北海道循環器病院），中田智明，宮本憲次郎，小林尚子，笹尾寿貴，田中繁道（札医大二内）

肥大型心筋症（HCM）67 例，圧負荷心（高血圧 / 大動脈弁狭窄）23 例，健常者 11 例を対象に，Tl/BMIPP 心筋 SPECT にて両者の局所集積乖離を視覚的半定量評価。BMIPP 集積低下型乖離は HCM（86%），圧負荷心（65%）では対照群（10%）に比し高頻度。肥大心両群とも前壁・心尖部の乖離が多く（39% vs 33%），中隔乖離は HCM 群（26% vs 13%），側壁乖離は圧負荷心（19% vs 37%）で高頻度。この傾向は閉塞型 HCM でより顕著。HCM 進展期（拡張相 / 左室駆出率 45% 以下）では，BMIPP 集積欠損型乖離を 6 例（60%），Tl 欠損を 3 例（30%）に認めた（非進展期ではそれぞれ 3.6%, 0%）。以上，Tl/BMIPP 心筋 SPECT による心筋血流・脂肪酸代謝評価から肥大心の病型・病期分類が可能と考えられる。

244 心筋脂肪酸代謝障害からみたDCMとARの鑑別

鈴木　康，外山卓二，飯塚利夫，金沢紀雄，若松　秀，有阪弘明，大島　茂，鈴木　忠，永井良三，行広雅士，井上登美夫，遠藤啓吾　（群馬県心筋代謝画像検討会）

同程度に心室拡大を示した拡張型心筋症(DCM)24例および大動脈弁閉鎖不全症(AR)7例の心筋脂肪酸代謝障害の特異性について^{123}I-BMIPP心筋シンチグラフィーを用いて検討した。心筋SPECTを20区域に分割し、集積程度を4段階 defect score (DS)(3:欠損～0:正常)で評価し、DSの合計を total defect score(TDS)とした．TDSは安静時後期像で有意差を認めた(DCM:AR，16±11:7±4)．集積低下部位は両者とも心尖部から下壁に集中し、DCMでは中隔に及んだ。DCMにおいて^{123}I-BMIPPの後期H/Mは心エコー図のLVDd(r=-0.63)およびEF(r=0.52)と相関を示した．DCMおよびARでは心筋脂肪酸代謝障害を認めたが，^{123}I-BMIPP後期像において両者の特異性を認めた．

245 ミトコンドリア脳筋症におけるBMIPP心筋シンチグラフィーの臨床的有用性の検討

小林俊一（港湾病院）高橋延和、三谷勇雄、落合久夫、石井富男（横浜市大二内）

Kerns-Sayre症候群(KS)２例とMELAS3例を対象とし、BM及び^{201}TlCl(Tl)心筋SPECTを施行した。画像は17領域に分割し、４段階（正常：０～高度欠損：３）にスコア化した。BMではMELASの１例を除く４例で集積低下およびBM>Tlのミスマッチを認め、このうち３例は壁運動異常を認めなかった。壁運動異常を認めた１例は２年の経過で心機能の低下（%FS：22%vs16%）に伴い、BMのESも高値を示した（ 7% vs 22% ）。BMの集積低下はAV junctional region 近接の前壁中隔に高率（80%）に認められ、この１例は完全房室ブロックを呈した。MMでは心機能低下に先立ち、左室前壁中隔部を好発とする心筋脂肪酸代謝障害が出現すると考えられる。

Presented by Medical*Online